

YPUドリームアドベンチャープロジェクト2017 <中間報告>

YPUジャント in 山口・昌原 ー飛び出そう！繋ごう！ー

活動目的

姉妹都市である韓国の昌原市と山口市それぞれで、双方の地域について紹介し理解を深めてもらうとともに、地域の活性化の促進を行うことを目的としています。地域を飛び出し、両地域を繋ぎ、活動を広げることによって持続可能な活動の定着を目指します。

活動報告

①日韓大学生地域連携活動事例セミナー 参加

実施日：9月22日（金）9：30～11：00

実施場所：慶南大学校 汗馬未来館 1階視聴覚室

参加者：プロジェクトメンバー4名、慶南大学生50名程度

活動内容：日韓で地域活性化のために活動しているグループの事例発表

※別途資料を参照

①YPUジャント in 昌原 ー어서 와~ 야마구치는 처음이지? (おいでよ、山口って知ってる?) ー

実施日：9月22日（金）15：00～16：30

実施場所：韓国昌原市チャンドン オドンドン商店街 商圈活性化財団

対象者：韓国の高校生 約80名

活動内容：山口紹介、日本文化体験ブースの運営

☆山口紹介ブース、食文化体験ブース

山口県について知ってもらうためクイズを取り入れた参加形式のパワーポイントで山口県の紹介。実際に外郎と小野茶の試食や大内塗りの人形を見てもらい、どのようなものか感じてもらえるようにしました。学生たちも初めは山口を全く知らない状態でしたが、観光地や名産品に興味を持ってくれ、実際に行ってみようといった声も聞かれました。また外郎と小野茶も親しみを持って試食してもらうことができました。



☆うちわ作り体験ブース

徳地和紙の紹介を兼ねたうちわ作りでは、和紙を使用したうちわに桜や梅の形をした折り紙を貼り付けるなど創作をしながら日本文化を体験出来るようにしました。また筆ペンも用意し、各自好きな日本語を

書くようにし、自分だけのうちわを作ってもらいました。思い思いのうちわが出来ていて学生にも楽しんでもらえ運営側も楽しく出来ました。



★伝統遊び体験ブース

日本の伝統遊びとしてけん玉、福笑い、お手玉、紙風船を用意しました。初めてする遊びに高校生も夢中になって取り組んでおり、とても楽しんでいる様子が伝わりました。

★浴衣体験ブース

実際に日本人と浴衣の着付けのできる慶南大学の学生で手分けして高校生たちに浴衣の着付けをしました。浴衣は、女性用のものと男性用のものを用意しました。浴衣を手際よく着つけて、脱がせるという作業の中で韓国の高校生たちとのコミュニケーションをとりながら、韓国の高校生たちは浴衣にとっても関心があることが分かりました。それぞれ好みの色の浴衣を選び、着せてもらうと写真撮影で盛り上がっていて、女子学生だけではなく、男子学生も浴衣を着ることが新鮮だと言って大変喜んでくれました。



伝統遊び体験ブースの様子



浴衣体験ブースの様子



②YPUジャント in 山口 -おいでませ昌原-

実施日：10月8日（日）10：00～16：00

実施場所：アートふる山口 大殿地域交流センター1階講堂

活動内容：昌原紹介、韓国文化体験ブースの運営

★昌原紹介ブース

慶南大学からの交換留学生3名が出身地である昌原のおすすめ観光スポットや有名な食べ物についてパネルを用いて紹介を行いました。昌原市を初めて知ったという方が多く、山口の姉妹都市であることもあまり知られていませんでしたが、これを通し目的の一つであった認知度向上に繋がりました。



★食文化体験ブース

韓国の食文化に触れてもらうため、ホットクというおやきのようなお菓子ととうもろこし茶を用意しました。ホットクは事前に作っておき、会場で温め直し配りました。ホットクは140個程度、とうもろこし茶は3箱ほど用意しました。ホットクやとうもろこし茶を知っている人にも知らない人にも反応が良く、開始2時間ほどでホットクはなくなりました。



★伝統遊び体験ブース

韓国の伝統遊びであるコヌ、チェギチャギ、めんこを準備しました。留学生が直接説明し、地域の方が留学生と気軽に交流できるスペースにもなりました。日本にはない遊びについてはルールを覚えるのが大変そうでしたが、小さな子供も参加してくれて、特にチェギチャギという羽根を蹴る遊びは手軽なため、夢中になって参加してくれる方が多かったです。

★韓服体験ブース

韓国の伝統衣装である韓服の試着体験を行いました。子供用のものから大人用まで誰でも楽しめるように、男女別に多様なサイズを準備しました。親子連れで来られる方が多く、家族の記念写真を撮ったり、軽くて華やかな韓服を多くの方に楽しんでもらえました。



伝統遊び体験の様子



韓服体験の様子



今後の活動

ジャント実施時に行ったアンケート調査の集計を行い、今回の活動を振り返るとともに、今後につなげられるように活動の様子や準備の様子をデータとしてまとめようと計画しています。形に残すことで目的の一つである持続可能な活動としての定着を図れればと思っています。